

# 主体的な学びの実現に向けた道徳科のカリキュラム・マネジメント

## ～道徳教育推進教師としての教材開発，授業づくり～

19077 真壁さやか

キーワード カリキュラム・デザイン 学びのプラン 振り返りカード 自作教材

### I 概要

昨年度、教職員を対象に行った聞き取り調査、教職員と生徒を対象に行った道徳性に関する実態調査から、所属校の生徒に関して4つの課題があることが明らかになった。それらの課題を所属校の生徒に「大切にしてほしい心」として示すとともに、重点指導内容項目（以下、重点項目）を設定してカリキュラムを編成した。所属校では研究テーマを「能動的に学習に取り組む生徒の育成」、副題を「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業づくりを通して」として昨年度までの3年間研究に取り組んだが、主体的な学びの実現で課題が残った。また、調査で明らかになった4つの課題の根底には、何事にも受動的であるという課題があるものと考え、道徳教育推進教師として、主体的な学びの実現と主体的に物事に取り組める生徒の育成を目指して道徳科のマネジメントを行った。

### II 研究の結果

#### 1. 道徳科のカリキュラム・デザインの作成

教職員を対象に行ったヒアリング調査、教職員と生徒を対象に行った道徳性に関する実態調査から、所属校の生徒に関して4つの課題があることが明らかになった。そこで、カリキュラム・デザインを作成するにあたって、教職員があげた4つの課題と生徒の思い、関連する内容項目、関連する所属校の行事等を整理した（表1）ところ、4つの課題は、学習指導要領の内容項目に照らし合わせると、特に6つの内容項目と関連が深いことを見出すことができた。内容項目に関して、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編では、1つの内容項目だけが単独に作用することはほとんどなく、内容項目を中心として、幾つかの内容項目が関連し合っているとされている。このことから、通常2～3項目に設定している学校が多いが、所属校においては、この6つを重点項目に設定し、重点的に指導していくことで課題解決を目指すことになった。昨年度までも重点項目は設定され年間35時間の中で複数回扱ってはいたが、道徳科が学校教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての機能を果たしていなかった。また、ヒアリング調査で多くの教職員が課題解決の為に「生徒主体で取り組む学級活動の時間確保や行事の設定が必要」とあげていたことを受けて、行事や特別活動、総合的な学習の時間（以下、行事等）での学びと道徳科の学びをつなげることが可能になるように教材を配列するとともに、6つの重点項目に関連する教材の検討を行った。

表1 教職員があげた4つの課題と生徒の思い、関連のある内容項目、関連する所属校の行事の整理

課題	主体性に欠け指示待ちである	目標設定が低い・向上心が低い	根拠強さに欠ける	視野が狭い		
生徒の思い（真壁分析）	・勝手（自主的）にうごいてはまずい。	・安全にいろいろ。無理はしない。	・自分にはできない。	・玉浦は玉浦		
	・先生の言う通りにしないでいいの。	・○さんもこんなものだし。	・このくらいでいいや。	・自分（たち）は自分（たち）		
	・自分だけの判断で動いていいの。	・みんなと同じならいい。	・つらいことをやる意味があるのか。	・そんなこと自分たちには関係ない		
	・指示通りやるのが大切	・自分（達）はこんなものだろう。	・無理だからやめておこう	・どうなってるのかなんて興味ない		
		・自分は学年でこういう立ち位置。		・自分たちには不可能		
		・目立つのははずかしい。				
		・別に勝たなくても楽しければ				
道徳内容項目	自主、自律、自由と責任	○	○			
	向上心、個性の伸長		○	○		
	希望と勇気、克己と強い意志		○	○		
	真理の探究、創造	○	○	○		
社会参画、公德心	○			○		
相互理解、寛容		○		○		
関連のある行事、学級活動、総合的な学習	・生徒総会 ・防災訓練 ・3年生を送る会	・各種委員会 ・生徒会改選 ・防災学習 ・芸術祭 ・式準備	・部活動 ・運動会 ・高校訪問 ・教育相談 ・入試	・定期考査 ・進路学習 ・学期初めの学活	・スポーツ笑顔の教室 ・部活動 ・全校駅伝	・職場体験学習 ・修学旅行 ・農泊体験 ・被災地見学 ・南国市交流

カリキュラムは、年間指導計画、別葉、重点指導項目に関わる道徳科と各領域におけるねらいの整理の3点を示した。新宮（2019）が、いくつかの内容項目が関係し合い、人間のよさ（道徳的価値）をつくっていることから、いくつかの内容項目を構造的に関連づけてねらいを立てること、また、道徳的価値の理解や判断力の拡充をする学習を重ねるに従い道徳的心情が高まり、道徳的実践意欲や態度が育っていくことから、この三者を構造的に関連づけた目標と3つの具体的なねらいを設定する必要があると述べていることを受け、年間指導計画に重点項目に関わる教材の具体的なねらいを示した（表2）。また、別葉（表3）は教員が道徳科と行事等の指導を関連付けて指導する上で見通しをもつことをねらいとして作成した。しかし、道徳教育を進める上で、別葉のみでは行事等における指導との系統性が不明確であることから、「重点項目に関わる道徳科と行事等における指導のねらいの整理」を作成した。その概要を、作成したものを一部抜粋して改変し図1に示した。

表2 令和2年度1学年 道徳科年間指導計画（一部抜粋）

月時	【主題名】 教材名	目標（指導のねらい）	中心となる内容項目	関連してくる内容項目	関連してくる内容項目	関連してくる内容項目	相互に関連を固りながら指導したい教科とその内容	相互に関連を固りながら指導したい行事
7月3日	【さらなる高みを目指して】 1 全てがリオでかみ合った	自己理解を深め、自分に合った方法を見だし、そうすると決めたことに根拠強く取り組むことで困難を乗り越えようとする。 道徳的価値・判断力 道徳的心情 道徳的実践意欲や態度	自分らしく自分のやり方に自信をもつて根拠強く取り組んでいくことで困難や失敗を乗り越えられることがわかる 自分に合ったやり方を見だし、困難や失敗を乗り越えようとする心が動く 部活動や学習において、自分なりに工夫しながら根拠強く取り組むことで失敗や困難を乗り越えようとする	A-(4)希望と勇気、克己と強い意志	A-(3)向上心、個性の伸長	D-(22)よりよく生きる喜び	数学：資料の活用 保健体育：陸上競技	オリンピック

表3 令和2年度1学年 道徳科別業

教科他/月	6月	7月-8月(夏休み前)	8月(夏休み後)-9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳	ともにも、授業開き(見えない根)	11「短文投稿サイトに友達の悪口を書くと」	4「自分の性格が大嫌い」	12「いのちって何だろう」(2月から移動)	6「傍観者でいいのか」	18「ごみ箱をもっと増やして」	玉浦白蓮	木箱の虫の幼虫たち	28「彼に嫉う人の思い」
	多項目	B-(8) 友情, 信頼	A-(3) 向上心, 個性の伸長	D-(19) 生命の尊さ	A-(1) 自主, 自律, 自由と責任	C-(10) 遵法精神, 公徳心	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度	A-(4) 希望と勇氣, 克己と強い意志	D-(20) 自然愛護
	トマトとメロン	町内金字ビュニー	20「席替え」	25「全校一を目指して」	6「ふたつの心」	17「銀色のシャープペンシル」(11月から移動)	10「新しいプライド」	富士山を踏む(12月から移動)	24「火の鳥」
	A-(3) 向上心, 個性の尊重	C-(12) 社会参画, 公共の精神	C-(11) 公正, 公平, 社会正義	C-(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実	*複数内容項目	D-(22) よりよく生きる喜び	C-(13) 勤労	A-(1) 自主, 自律, 自由と責任	D-(21) 感動, 畏敬の念
	2「朝市の『おはようございます!』」	16「本が並んでいます」	9「山に来る資格がない」	21「その人が本当に望んでいること」	14「母はおしいれ」	言葉の豊は日本個で乗り継げた		13「決断! 骨髄バンク移植第一号」	19「『どうせ無理』という言葉に負けない!』
	B-(7) 礼儀	C-(12) 社会参画, 公共の精神	A-(2) 節度, 節制	B-(6) 思いやり, 感謝	C-(14) 家族愛, 家庭生活の充実	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度		D-(19) 生命の尊さ	A-(5) 真理の探究, 創造
		1「全てがりでかみ合った」	28「英語が教えてくれること」	21「思いやりの日々」	ものづくり			28「日本から来たおばさん」	
内容項目	A-(4) 希望と勇氣, 克己と強い意志	B-(9) 相互理解, 寛容	B-(6) 思いやり, 感謝	A-(5) 真理の探究, 創造			C-(18) 国際理解, 国際貢献		
内容項目		私のルール我が家の約束	3「選手に選ばれて」						
内容項目	A-(1) 自主, 自律, 自由と責任	C-(10) 遵法精神, 公徳心							
学校行事	入学式(多項目) いわぬま健康運動A-(1)(2) 身体測定A-(2) 部活動ミーティングA-(1)(3)(4)B-(9)C-(10)(15) 避難経路の確認A-(2) シナト訓練A-(1)(2)D-(19)	引越訓練, 地区生徒会A-(1)(2)C-(12)(14)(16)D-(19) 期考教室A-(3)(4)C-(10) 終業式(多項目)	始業式(多項目) 防災学習【総合】A-(1)(2)C-(12)D-(19)	福祉体験学習会A-(1)B-(8)(9)C-(12)(14) 立金演習会, 役員選挙D-(9)C-(10)(11)(12)(15)	期末考査A-(3)(4)C-(10) Jアラート訓練A-(2)D-(19) 福祉講演会A-(1)B-(8)(9)C-(12)(14) 避難訓練A-(1)(2)D-(19) 教育相談A-(3)D-(22)	筆授業【音楽】 終業式(多項目)	始業式(多項目)	私立入試A-(4) C-(10) 期末考査A-(3)(4)C-(10) ワックスがけA-(1)(2)B-(6)(8)C-(13) 3年生を送る会B-(6)(7)	進修式C-(16)D-(19) 卒業式 B-(6)(7)(8) 離任式 B-(6)
学級活動	各種委員会, 係の決定C-(15) 新年度, 1学期の目標の設定A-(4)D-(22) 学級目標の設定A-(2)BすべてC-(10)~(15) 生徒会総会 A-(1) C-(15)	期末考査に向けてA-(3)(4) 1学期の反省A-(3)D-(22) 夏休み, 教育相談に向けてA-(2)(3)(4)C-(10)(12)(14)D-(19) 学期末清掃A-(2)B-(6)	2学期の目標設定A-(4)D-(22) 2学期の生活について(他項目) 防災宿泊学習に向けて(総合)A-(1)(2)C-(12)D-(19)	期末考査に向けてA-(3)(4) 各種委員会の決定C-(15)	いじめ防止強化月間A-(1)B-(6)(9)C-(15)D-(19)	2学期の反省A-(4)K11~J5M15~J2M15~J1M15~K11~J5M15~J2M15~J4M15~J5M15~J4M15	新年, 3学期の目標設定A-(4)D-(22) 3学期の生活について(他項目) 3年生を送る会の準備A-(1)(5)B-(6)(7) 期末考査に向けてA-(3)(4)	3学期の反省A-(3)D-(22)	春休みに向けてA-(2)(3)(4)C-(10)(12)(14)(19) 卒業式練習B-(7) 卒業式準備A-(1)B-(6)
総合的な学習の時間	(詳細は重点指導項目整理の表を参照)								
その他	各種委員会A-(1)(5)C-(12)(13)(15)(18)D-(20) 実力テストA-(3)(4) 表彰集会A-(3)B-(9) 壮行式A-(4)D-(9)C-(15)								

実施月	5月	7月	9月	2月
教科・領域 教材・題材	道徳 「トマトとメロン」	道徳 「全てがりでかみ合った」	学活「新人大会に向けて」 新人大会	道徳 「ものづくり」
重点指導内容項目	希望と勇氣, 克己と強い意志	自分で決めたやり方に根強く取り組み困難を乗り越えようとする態度を育てる。	目標達成に向け, まずは目の前の小さな目標に向かって根強く取り組みようとする意欲を高める。	現状に満足せず, 何とかしたい, 変えてみたいという意欲を高め, 根強く探究しようとする態度を育てる。
個性の伸長	自分の個性を大切に, さらに伸ばしていこうとする意欲を高める。	自己理解に努め, 自分に合った方法を見だし, 向上しようとする意欲を高める。	自分の成果と課題を見だし, 課題を改善し, よさを伸ばそうとする態度を養う。	

図1 令和2年度1学年 重点項目に関わる道徳科と行事等における指導のねらいの整理(一部抜粋, 改変)

## 2. 道徳科における学びの見通しと振り返り

### (1) 道徳科オリエンテーション授業の提案と学びのプラン

道徳科における主体的な学びの実現に向けて, 以下のア~ウの3点をねらいとした道徳科オリエンテーション授業を提案し全学級で実施した(授業デザインは【資料1】として示した)。

ア. 道徳科の学習の意義を考えさせる。

イ. 自分自身(自分達)の課題を把握させ, 今後の学習に見通しをもたせる。

ウ. 道徳科の学び方について理解させる。

授業後の道徳ノートには以下のような記述があり, これからの道徳科の学習に対する前向きな姿勢が見られた。

- ・授業に一生懸命に取り組み, 自分の気持ちと向き合っています。その場の行動を考えて困っている人がいたら優しく相談のり, 思いやることのできる人になれるように今から頑張っています。
- ・人の心を大事にすることの大切さを改めて感じました。
- ・これからの道徳では, 自分の気持ちと向き合い, クラスの皆と考えを深め合えたらいいと思いました。

中教審答申(H28.12)の「主体的・対話的で深い学び」の具体的な内容を受け, 高木(2019)は, 子どもたちが学びに興味や関心をもち, 学んでいることを次の学びへつなげるために, 子どもたちに見通しをもたせ



道徳学びのプラン		玉中生に大切にしてほしい心				自分が今、一番育てたい心		1年( )組( )番 名前( )		
中学生の心を育てる22個の(ポイント)		自分から積極的に行動しようとする心	目標達成に向けて、自分をほす心	粘り強く取り組もうとする心	色々な考えを受け入れ、自分の考えを広げようとする心	人に誇れる心 できる優しい心		□と*があるものは振り返りカードに振り返りを書く予定です		
A 自分自身に関する事	自主自律、自由と責任 (自ら考え、責任もつ)	♥	♥	♥				11月 傍観者でいいのか	11月 ふたつの心	12月 富士山を語る
	節度、節制 (安全で健康な生活)							8月 *私のルール我が家の約束	9月 山に来る資格がない	
	向上心、個性の伸長		♥		♥			6月 トマトとメロン	8月 自分の性格が大嫌い!	
	希望と勇氣、克己と強い意志	♥	♥	♥	♥			7月 全てがリオでかみ合った	2月 本箱の中の鉛筆たち	
	真理の探究、創造(探究し、新しいものを生み出そうとする)	♥	♥	♥	♥			10月 ものづくり	3月 どうせ無理という言葉に負けない	
B 人との関わりに関する事	思いやり、感謝					♥		10月 その人が本当に望んでいること	10月 思いやりの日々	
	礼儀					♥		6月 都市の「おはようございます」		
	友情、信頼					♥		7月 短文読解サイトにある漢の漢口を書くこと		
	相互理解、寛容(認め合う心)		♥		♥			9月 落語が教えてくれること		
C 集団や社会に関わりに関する事	遵法精神、公德心(法や決まり、権利と義務)							9月 選手に選ばれて	12月 こみ箱をもっと増やして	
	公平、公正、社会正義(差別や偏見のない態度で)							9月 席替え		
	社会参画、公共の精神(社会や公共のために役立つ)	♥			♥			7月 町内会デビュー	7月 本が泣いています	
	勤労(働くことの尊さ)							1月 新しいプライド		
	家族愛、家庭生活の充実(家族の幸せのために)							11月 母はおいしい		
	よりよい学校生活、集団生活の向上							10月 全校一を目指して		
	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心							1月 *玉浦白菜		
	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度							2月 言葉の壁は日本語で乗り越えよう		
国際理解、国際貢献							2月 日本から来たおばさん			
D 生命や自然、崇高なものに関わりに関する事	生命の尊さ							2月 いのちって何だろう	2月 決断! 骨髄バンク移植第一号	
	自然愛護							3月 桜に集う人の思い		
	感動、畏敬の念(美しいものや気高いもの)							2月 火の島		
	よりよく生きる喜び							12月 銀色のシャープペンシル		

図2 令和2年度1学年 学びのプラン(自分が一番育てたい心は、実際にある生徒が記入したものを示している)

## (2) 道徳ノートと振り返りカード

加藤(2019)は道徳ノートが、学びを自分のものとしたり、学びを深めつなげたりする役割があるとしている。所属校ではこれまで全学級でワークシートを用いて指導していたが、教師が事前に発問を決め、発問ごとに欄が設けられたワークシートを用いた指導をしていたことが、生徒の主体的な学びを阻害する要因の1つになっていたのではないかと考え、主体的な学びの実現に向けて道徳ノートの使用を提案した。1学年では、授業後の振り返りを授業の終末に書かせるのではなく、授業中に自分や級友の考えを書き込んだ左ページを見ながら、家庭でじっくり書かせることにした。また、担当学級においては、学期ごとにノートを見直して自分の考えを追記させたり、家族と話し合っって考えを書かせたりする機会を設けた。

さらに、生徒自身が「大切にしてほしい心」の成長を感じ、自らの学習を調整するとともに、教師が指導改善を図っていくことをねらいとして「振り返りカード」(図3)を提案した。昨年度まで行事等の振り返りをさせたワークシートを担当が保管する、もしくはポートフォリオとして蓄積させるのみで十分に指導に活用できていなかったこともあり、今年度はカリキュラム作成時に、重点項目に関連する教材を行事等と関連付けて配列していたことから、道徳科で扱った題材と行事等での学びを合わせて振り返らせるよう改善した。

生徒が道徳科で教材を基に考え、授業後にノートに記述した振り返り、関連する行事等での学びと合わせて「振り返りカード」に記述した振り返り及び学期の終わりにノートに追記した内容を整理すると、道徳科の授業後も題材について考え続けていることがうかがえ、授業後も主体的な学びが継続していることがわかる(図4)。

玉中生に大切に してほしい4つの心						名前
自分から積極的に行動しようとする心	目標達成に向けて、自分をほす心	粘り強く取り組もうとする心	色々な人から学び、自分の考えを広げようとする心			
自主自律、自由と責任	向上心、個性の伸長	希望と勇氣、克己と強い意志	真理の探究、創造	社会参画、公共の精神	相互理解、寛容	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	
( )	( )	( )	( )	( )	( )	

図3 振り返りカード

6つの重点項目が「大切にしてほしい心」のどれと関連があるかをマークの色で示した。

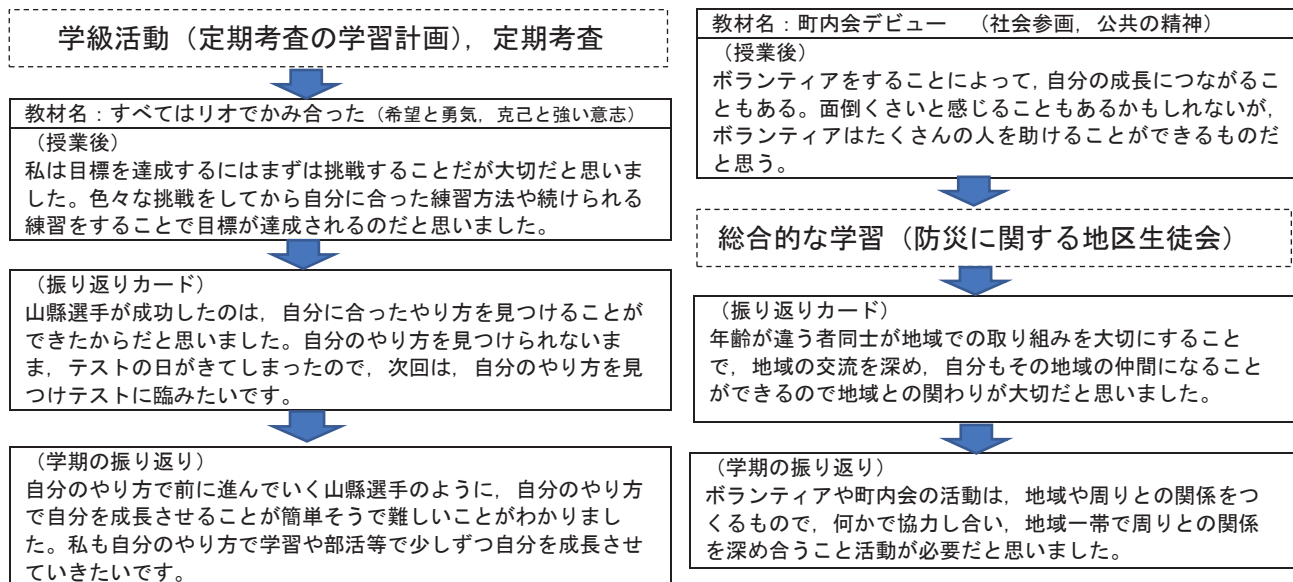


図4 授業以降の生徒の考えの変容

今年度は、感染症対策で行事の削減や総合的な学習の時間の内容を一部変更して行うことになり、関連付けて指導できなくなってしまったものもあったが、カリキュラムを基に作成した「学びのプラン」、 「道徳ノート」、及び「振り返りカード」を用いた指導は、主体的な学びに有効な手立てであった。

### 3. 「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する自作教材の開発と実践

「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する教科書の教材は、主人公が実際に伝統芸能に関わった話から、「あなたはどのように地域の伝統と関わっていきますか。」等の発問をする授業デザインが示されているものが多い。この内容項目は、所属校において4つの課題解決に向けて設定した6つの重点項目と関連が深く、震災からの復興を目指している地域である点から、自分事として主体的に考えることのできる教材選択の必要性を感じ、所属校の地域を題材とした自作教材を3点作成した。そのうち実際に指導した「川村孫兵衛と玉浦」、「震災からの復興と玉浦白菜」の授業デザインと教材、生徒の振り返りそれぞれを以下に示した。

【資料2】自作教材「川村孫兵衛と玉浦」授業デザイン

時間	主な発問と予想される生徒の反応	留意点
導入	1. 昇降口に展示されている玉浦地区沿岸部の地層標本から玉浦を過去の様子をイメージさせる。 2. アンケート結果の提示 ○玉浦の歴史（どうやって作り上げられてきたか、昔のようす風習、農産物、人物）に関心がありますか。 とてもある：1名 ある：8名 あまりない：12名 まったくない：6名 ○郷土や地域への関心が薄い現状を把握させる。 1. 地域のためになる活動に参加したことがありますか。 ある：9名 ない：18名 2. 将来の玉浦をイメージしたり考えたりしたことがありますか。 ある：3名 ない：24名 3. 学習課題の提示 学習課題 川村孫兵衛や玉浦の先人達の郷土にこめた思いについて考えよう。	・3回の大きな津波があり、水田耕作のため慶長津波の堆積物が薄いことにふれ、過去にも人々の手で復興してきたことを知る。 ・小学校で玉浦の文化や歴史について調べたことはないか確認する。その時に郷土の文化を大切にしなければいけないと思ったはずだが、実際は関心が低いという事実を示す。 ・ノートに学習課題を書かせる。
	4. 範読 指導の観点 孫兵衛が村人に寄り添い、村人には地域の一員としての自覚が芽生え、両者が一体となって地域が形成されていったことを理解させる。（道徳的価値・判断力）	
展開	5. 発問：孫兵衛や村人達はどんな思いで事業に関わっていたのだろう。	・学級を孫兵衛の立場で考える生徒と村人の立場で考える生徒に分けて、ノートに考えを整理させる。 ・全体で共有し、孫兵衛や住民の気持ちを整理する。 ・両者とも自分のことだけでは
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <b>村人の立場で考える場合の視点</b>            1) 村人は孫兵衛がやってきて掘工事を始めたのを見てどう思っただろう。            ・ここを知らない人に何が出来るのか。         </td> <td style="width: 50%;"> <b>孫兵衛の立場で考える場合の視点</b>            1) 孫兵衛は早稲の地を与えられた時、どんなことを考えていただろう。            ・自分の力が試したい         </td> </tr> </table>	
<b>村人の立場で考える場合の視点</b> 1) 村人は孫兵衛がやってきて掘工事を始めたのを見てどう思っただろう。 ・ここを知らない人に何が出来るのか。	<b>孫兵衛の立場で考える場合の視点</b> 1) 孫兵衛は早稲の地を与えられた時、どんなことを考えていただろう。 ・自分の力が試したい	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝手に進めないでほしい</li> <li>・どうなるのだろう（期待、不安）</li> </ul> <p>2) 震災後、塩作りにどんな思いで関わったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農耕ができないのはつらいが何とかしなければ。</li> <li>・孫兵衛を信頼してついていけば大丈夫。</li> <li>・自分たちにできることをしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみ</li> <li>・政宗にいいところを見せたい</li> <li>・住民に受け入れられるだろうか</li> </ul> <p>2) 孫兵衛は慶長津波で被害を受けた後、どんな思いで塩作りを始めたのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで掘削を頑張ってくれた住民をなんとか助けたい。</li> <li>・この地を復興させたい。</li> <li>・この地域のためになりたい。</li> </ul>	<p>なく、相手や村全体のことを考えるようになったことに気づかせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアで話しをさせ、ノートに記入させる。</li> <li>・全体で共有する。</li> <li>・補助発問を加えながら、うまくいかないことやつらいことがあっても、互いに尊敬し合い、両者の思いが1つとなり事業が進められていったことに気づかせる。</li> </ul>
<p>6. 発問：どうして工事や製塩事業（復興）が順調に進んでいったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を自覚して取り組んだから。</li> <li>・自分達の村であるという思いが強くなったから。</li> <li>・互いに信頼関係をもって取り組んだから。</li> <li>・それぞれに自分のために頑張ってくれた村人、自分達の住む村を何とかしたいという思いが生まれたから。</li> </ul>		
<p><b>指導の観点</b> 玉浦地区は昔から地域住民の努力と、孫兵衛やボランティアのような人たちの支援により復興、発展してきたことに尊敬の念を抱かせる。（道徳的心情）</p>		
<p>7. 東日本大震災時にもたくさんのボランティアと地域の人の努力があっけいち早く復興が進んでいったことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の画像や新聞記事をICTで示す。</li> </ul>	
<p>8. 発問：このように復興に関わってきた外部の人々や先人がいるということはどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう人達がいなかったら今の生活はないのかな。</li> <li>・自分達だけでは復興できなかったのかもしれない。</li> <li>・外部の人が自分たちのことを思ってくれたのはうれしい。</li> <li>・先人の努力があって今の玉浦があるのだな。</li> </ul>		
<p><b>指導の観点</b> 自分達の住む玉浦地区のことに関心をもたせるとともに、郷土である玉浦を思う気持ちや関わっていかうとする意欲を高める。（道徳的実践意欲や態度）</p>		
<p>9. 発問：玉浦に関わりのある先人の想いにどう応えていけばいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先人達が築いてきたものを大切にする。</li> <li>・感謝の気持ちをもって生活する。</li> <li>・自分ができることを探していく。</li> <li>・地域のことにもっと関心をもつ。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに自分の考えを書かせる。</li> <li>・感謝の思いや尊敬の念を抱くだけで終わらせていいのかと問い返し、考えを深めさせる。</li> <li>・全体で共有する。</li> <li>・地域の活動に参加すると答えた生徒や具体的な活動を答えた生徒にはどうしてそのような行動が必要と思ったのか問い返す。</li> </ul>		
<p>終末</p>	<p>10. 振り返りを記入させる。</p> <p>11. 教師によるまとめ *地層から津波や開墾の事実は読み取れても、人々の思いまでを読み取ることはできないが、今日のように先人達に思いを馳せ、これからは自分達が地域の発展に関わろうとする意識をもつことが必要であることを話した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間が足りない場合は、家庭での課題とする。</li> </ul>

（生徒の振り返り）

- ・玉浦の歴史についてあまり興味がなかったけど、孫兵衛や先人がお互いに信頼していたからできたことだと思いました。また、この思いや努力のあかしを風化させてはいけないと思いました。
- ・今ある生活もすべてこの方の努力のおかげかと思うと感謝しかありません。その努力に応えられるようにしていくのが私の使命だと思うので、できる限りのことをしたい。
- ・今日の話を読んで、玉浦の人はすごい思ったし、人々の思いを考えることができてよかった。今日分かったことや考えたことをたくさんの人に知ってもらい、玉浦の土地を大切にしていきたいと思いました。

【資料3】 自作教材「川村孫兵衛と玉浦」

「川村孫兵衛と玉浦」

川村孫兵衛重吉は天正三（一五七五）年、長州（現在の山口県）で生まれました。孫兵衛が仙台にやってきたのは、二十代の半ばのころでした。若い頃から土木、植林、製塩等の仕事に関わり、いつかその知識と技術を人のために役立てたいと考えていました。そのような時に、仙台藩主の伊達政宗に認められ、政宗から「五百石で家臣にならないか」と声をかけられますが、孫兵衛は「田の代わりに荒地をいただきたい」と希望し、名取郡早股村（現在の岩沼市玉浦）の湿地帯をもらいました。孫兵衛は、早股村付近の海岸線にある沼地の水を阿武隈川に排水できれ

貞山運河の位置を地図で示した。



石巻市日和山ある川村孫兵衛像 2021. 1 撮影

ば、広い田畑を作れると考えました。自分の技術を試すには格好の土地であったのです。孫兵衛がそのことを政宗に提案したところ、水を名取川にも流し、沼地一体を掘でつなぐこと、そしてその堀を、木材の運搬に使える堀にするように命じられました。実は政宗は以前から仙台城を築城し、城下町をつくることを考えていました。そうすると、大量の木材、その他の物資が必要になりますが、領域南部（阿武隈川や白石川流域や亶理郡）から木材等を仙台へ運び込むためには、阿武隈川の河口まで川舟で運び、川舟から外洋船に積みかえて、海に出て名取川河口の閉上まで行き、再び川舟に積み替えなければなりません。これには手間がかかりすぎるし、海は波風が激しく船が難破することも珍しくなかったのです。

堀の工事には、近くに住む百姓や一家から一名ずつ男子が借りだされ、午前六時から午後六時までの間、働き通さなければなりません。農家の仕事もしなければならぬ百姓にとっては、とても大きな負担となっていました。孫兵衛は、百姓たちに「堀は木材を流すために使うのではない。沼地の水をこの堀に流せば、そこに田畑が作れるぞ。」と言って励ました。孫兵衛の噂を聞いていた仙台城下で同じく堀の工事に関わっていた御小人（城の清掃や土木を担当する役職）が孫兵衛のもとで働きたいと逃げてきたこともありました。ある日、土地のことをよく知る百姓たちから、「このあたりの土はしょっぱいので、何を植えても育ちませぬ。」という声が聞こえてくるようになりました。孫兵衛は、百姓たちの考えを聞き流さずに、近くの井戸を調査し、海沿いに作った堀が、海水が陸地にしみだすことを防ぎ、防波堤の代わりになることに気付きました。この経験もあり、孫兵衛の仕事は、百姓の意見を取り入れながら進められるようになりました。また、百姓たちも一生懸命に働き、堀の工事は順調に進んでいったのでした。こうして完成した運河が木曳堀（岩沼から後に石巻までつながられた貞山堀の一部）です。この長さ十五キロメートル、幅七十三メートルの「水の高速度道路」（木曳堀）の完成により、慶長六年（一六〇一）からはじまった仙台城の築城と城下町建設でしたが、三年後の慶長八年（一六〇三）八月にはほぼ城が完成し、武士の者すべてが城下町に移ったと言われています。

孫兵衛は、その後も北上川の整備や新田開発など多くの事業をやりとげていきます。ところが、慶長十六年（一六一一）十月、巨大地震が起こり、津波により仙台藩領内でも多くの人が溺死してしまうという出来事が起きてしまいました。孫兵衛の住む早股の村は一軒も残らず流失してしまいました。孫兵衛は城下町に出かけており、家族も岩沼の宿場まで逃げて無事でしたが、孫兵衛がこれまでに行った工事の図面や測量の記録がすべて流出してしまいました。この出来事以降、孫兵衛は、これまでのような事業に加えて、震災復興にその才能を発揮します。孫兵衛は同じ長州出身の伊藤三郎左衛門の協力をもらい、塩田づくりを始めました。はじめに海水をひきこむ水路を作り、砂地にしみこませます。さらに、水分が蒸発し塩分が付着した砂を集め、海水をかけて高濃度の塩水を作り、釜で煮詰めて塩を作ります。東日本大震災の例からもわかるように、津波で被災した土地は地中に残る塩のせいで農業が困難になります。孫兵衛や伊藤三郎左衛門の塩づくりによる復興は、自然災害による被害を、その地域の産業に変えてしまうという逆転の発想によるものでした。塩害に苦しむ被災地で塩を生産することにより、仙台藩の繁栄にもつながりました。塩づくりを行っていた地域は、東日本大震災により再び大きな被害を受けることになってしまいました。岩沼市玉浦地区の「相野釜」や「長谷釜」という地名は孫兵衛が塩づくり事業を伝えた場所とされています。

後に息子の川村孫兵衛元吉は、木曳堀に沿って潮害を防ぐためクロマツを植樹しました。マツを育てるには間伐作業や落葉や枯れ枝の除去等人の手による管理が必要でした。地域の人々は積極的にその管理に関わりました。また、マツは他の植物に比べ、脂（樹脂）を含んでいるためによく燃えるので、人々の生活や釜で煮詰めて塩を作る時の燃料として活用することができました。クロマツの植樹は潮害から田畑を守る防災事業であるとともに、父が始めた塩づくりに役立つものとなりました。川村孫兵衛親子が行った事業は、防災と復興、そして玉浦地区の発展に大きく貢献することになった。

岩沼・名取市沿岸部において「釜」の文字が残されている地名があることを地図で示した。

【資料4】自作教材「震災からの復興と玉浦白菜」 授業デザイン

ねらい 地域の伝統野菜を通して、復興や地域の活性化を目指してきた八巻さんの思いについて考えることで、地域で大切にされてきたものが秘めている力を知り、それらを大切にしていこうとする態度を育てる。

【道徳的価値・判断力】

地域に受け継がれてきたものが秘めた力やそれらを大切にすることの意義がわかる。

【道徳的心情】

地域の伝統野菜を大切に、感謝の気持ちや希望を与えたいと考えている八巻さんの姿勢に心が動く。

【道徳的実践意欲・態度】

地域の一員として、受け継がれてきたもののよさに関心を持ち、大切にしていこうとするとともに、それらを大切にしてくれた人に尊敬の気持ちをもつ。

時間	主な発問と予想される生徒の反応	◎中心発問	○発問	・補助発問
導入	①地域の伝統のもので知っているものをあげましょう。 ・仙台七夕 ・はらこ飯 ・竹駒神社の祭り 等 ②発問：七夕はどうして伝統として受け継がれているのでしょうか。 ・楽しい ・交流ができる ・(わからない) ③学習課題の提示 学習課題 地域の伝統について考えよう。			
展開	③範読 ④発問 ○震災後、どんな思いで初めての作付けをしたの？ ◎八巻さんは白菜を伝統野菜として大切な存在として扱い始めたのはいつだろう？どうしてその時点で白菜を大切にしようと思ったの？ <u>震災前の答えに対して</u> ・どうして震災前もマイナスが多い品種なのに育てていたの？ ・震災後に白菜に対するとらえは変わった？ <u>実った後という考えに対して</u> ・同等のものが育ったから大切な存在になったの？もし白菜が育ってなかったら、八巻さんは栽培をやめたのかな？ ・では震災前は白菜のことをどう思っていたの？伝統としてはとらえてなかったの？ ○栽培が減ってしまった（八巻さんもただの白菜としかとらえていなかったかもしれない）のに「伝統」野菜とされ続けているのはどうしただろう。 ・どういうものが伝統となるの？ ・誰が伝統にするの？白菜の力？地域の力？昔の人、今の人？ ・八巻さんはサポートしたり後継者を育成したりしているの？ ・伝統を大切にすることのよさは何だろう。			
終末	・今日の授業で考えたことを書きましょう。			

(生徒の振り返り)

- ・伝統とは、長い間途切れることなく皆に愛されているものことだと思いました。私たちも小学校の頃に種から玉浦白菜を育てたことがあったので、地域の伝統をつないでいく人の1人になれたのだと改めて実感しました。給食でも残さず大切に食べたいと思います。
- ・伝統は地域の発展にもつながるけど、それ以上に人と人のつながりができることが伝統のよさだと思います。作る人と消費する人、白菜作りを教える人と教わる人、笑顔にする人となる人、そのようなつながりを伝統品がつないでくれているのかなと思いました。
- ・温故知新という言葉がありますが、その言葉の通り、伝統を受け継ぎその中に良さを見つけることが、新しいものをつくることにもつながると思うので、そこが伝統を大切にすることのよさかなと思いました。
- ・何か災害が起きてからの希望ではなく、日頃から大切な伝統を絶やさないようにしていかなければならないと思いました。今後はただ大切に思うだけではなく、どのように大切にしていけるのか考えながら伝統と関わっていきたいです。





阿久津庄二郎  
出典 こども岩沼市史



玉浦白菜出荷絵馬（長谷釜神明社蔵）

出典：岩沼市史10 特別編Ⅱ

「震災からの復興と玉浦白菜」

大正時代以前、日本で栽培されていた白菜は結球（葉が重なり合って球状になること）にくいものでした。明治二十八年（一八九五）日清戦争に従軍した兵士が中国から結球する白菜の種子を持ち帰り、宮城県農学校（現宮城県農業高校）に寄贈、教諭だった沼倉吉兵衛が二十年をかけて結球する新しい品種として「仙台白菜」を誕生させました。しかし白菜は、近い品種の花粉で受粉してしまうという課題がありました。そこで、松島沿岸の馬放島（現七ヶ浜）に移植され、種子の採取にも成功しました。一九二二年（大正十一年）、玉浦村の地主で県議会議員だった安久津庄二郎が茶碗一杯分の種子を入手して農家に栽培を依頼しました。安久津は、土地が肥えていて農作物が育ちやすいことから、江戸時代から米・藍・紅花などの多種多様な農作物が生産されていた玉浦の土壌に注目し、新たな玉浦の特産物を作ろうと考えたのです。玉浦の農家の人びとは安久津の考えを受け入れ栽培を始めました。その後、玉浦の土壌で白菜は見事に結球し、「玉浦白菜」として出荷され、東京の中央青果市場を独占するほどでした。玉浦白菜は昭和初期に最盛期を迎えましたが、一九三二年（昭和七年）頃からは長野県などの有力な競争相手が現れ、戦時中に交雑で品種が劣化してしまっただけでもあり、作付面積が減ってしまいました。戦後再び回復の傾向が見られましたが、東京近郊でも栽培が盛んになったことと、米の出荷時期と重なるために東京への出荷が見送られるようになりました。また、傷つきやすく、栽培が難しいということもあり玉浦地区での栽培も衰退していきました。

玉浦で「やさしい工房八巻」を営む八巻文彦さんは、東日本大震災の大きな地震と津波で、百二十三ヘクタールの田畑が全滅してしまいました。震災後、農業をやめようと思うこともありましたが、どこから手を付けたらいいか分からない程、当時は自分の田畑にがれきがいっぱいでしたが、八巻さんは震災以前からつながりのある人や、多くのボランティアの助けを借りてがれきを取り除き、従業員やボランティアに來た人々から励まされて再び農業を始めることにしたのです。津波により海水につかってしまった畑の除塩は雨水に頼り、水田は度々何度も水を入れ替えることで除塩をできたところもありました。しかし、岩沼には農業用水路がなく、地下水をくみ上げて水田に入れて稲作をしているところが多くあります。こうした水田は、「陸田」と呼ばれています。この陸田では、東日本大震災の地震と津波の影響で、地下水が塩水化してしまいました。このようなところに当然稲作は向きません。しかし、そのままこの土地を荒地にしたいくない。そう考えた八巻さんは、震災前に病気に弱く重量野菜であることから敬遠されがちで、八巻さんも震災前には少量しか栽培していなかった玉浦白菜を作付けしてみたのです。すると、白菜はすくすく育ち、津波浸水被害前とほぼ同等の白菜が収穫できたのです。そこで、八巻さんは、玉浦白菜で地域の今後の農業に希望をもたせたいと考え、「岩沼園芸会」のメンバーとともに、「みやぎ岩沼はくさいプロジェクト」を立ち上げ、農地の復活を目指しました。八巻さん達は、歴史ある白菜を復活させ、農業復興のシンボルとしてブランド化を目指しました。

八巻さんは玉浦白菜を「生きた文化財」ととらえています。この「生きた文化財」を守っていくために、八巻さんは、白菜を作りたい人をサポートしたり、若者にも夢のある農業を提案し後継者を育成したりするなど日々奮闘しています。そして、地域の人々にこの白菜の存在、特徴にもっと関心をもち、消費してほしいという思いから、玉浦白菜に合うレシピのコンテストも開催しました。まずは地元で消費を広げ、昭和初期の頃のように再び消費を全国に拡大させることで、「全国のこれまで復興でお世話になった人々に感謝の思いを伝えるとともに、困難と向き合っている人々に希望を与えたい」と・・・

八巻さんの元へは、これまで五千人近いボランティアの方がやって来ました。白菜の苗を植える作業にも関東地方からも多くのボランティアが参加しました。「皆の顔を思い出すと、震災は悪いことばかりじゃなかったと思う。つながりや新たな出会いがあったのはよかった。こればかりはお金で買えるものじゃないものね。」と八巻さんは語ります。あの東日本大震災から十年、八巻さんは、玉浦白菜で日本中に感謝のメッセージを届け続けています。玉浦白菜は八巻さんだけでなく、この玉浦地区にとってかけがえのない大切な存在です。



白菜を収穫する八巻さん  
(本人より提供)

## 令和2年度 教職大学院 教材ミュージアム

---

編集 令和2年度 教職大学院 教務部会

発行 宮城教育大学大学院教育学研究科  
専門職学位課程（教職大学院）

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉 149 番地

令和3年3月31日 発行